

レジオネラ肺炎に注意

2020年1月に、日本で初めて新型コロナウイルスが確認されて、1年10ヶ月が経ちます。新型コロナウイルスに感染して重症化すると、肺炎になることが知られています。

肺炎の原因には、この新型コロナウイルスのようなウイルスや細菌などいろいろなものがあり、その一つにレジオネラ属菌という細菌が原因となるレジオネラ肺炎があります。

この病気は健康な人でもかかりますが、乳幼児やお年寄り、他の病気などにより免疫力が低下している人が発病しやすく、レジオネラ属菌に汚染された浴槽水の細かい湯気などの水滴（エアロゾル）を吸い込むことにより発病し、重症化する事例も報告されています。

レジオネラ属菌は、元来、水中や土壌中など自然界に広く存在する細菌です。この細菌が、水温20℃から50℃前後の水に混入した時、増殖するおそれがあります。私たちの身近な環境では、風呂（浴槽）、冷却塔、加湿器、噴水などで見つかっています。

レジオネラ肺炎はワクチンで予防することはできません。家庭内でレジオネラ肺炎を予防するためには、水中のレジオネラ属菌の増殖を防ぐことが重要です。特に、お湯を循環ろ過して長時間使用する、いわゆる24時間風呂の場合はレジオネラ属菌が増殖する可能性が高くなります。どのようなお風呂でもお湯はこまめに取り替え、浴槽を清掃するなど、清潔に保つ必要があります。エアロゾルを発生する加湿器なども同様に清潔を保ってご使用ください。

当研究所では、レジオネラ属菌の検査をはじめ、水質検査や食品検査を実施しております。ぜひお問合わせください。